

共通言語

「マクドナルドなら働ける」。スリランカから留学してきて3カ月。右も左も分からず、まだ日本語もほとんど話せなかったマドゥカさんは、「マクドナルド」は遠い異国の地でも分かる数少ない共通言語だった。早速店舗に連絡をして面接を受ける。店長は優しく「ゆっくり」と面談をしてくれ、ごも安心した。実際に働き始めてから、周りの仲間は温かく彼を迎え入れた。先輩たちは丁寧に仕事を教えてくれ、覚えたこの日本語で質問をしても、どんな時も笑顔で答えてくれた。嫌な顔をされたことは一度もない。学校での勉強とマクドナルドでの仕事を通して、マドゥカさんはどんどん日本語を話せるようになってきた。が、漢字が読めるようになるには随分と時間がかかった。そんな彼のために、先輩たちは、インフォメーションやマニュアルにふりがなを振ってくれた。「早いね」「もう完璧だね」。仕事を覚えるに必ず伝えてもらえたい言葉。慣れない日本での生活の中で、マドゥカさんはマクドナルドで働くことがどんどん楽しくなっていた。努力家の彼は、オペレーションのスキルを磨き、トレーナーへとタイトルアップした。

相手の「しゅ」をきいてほしい

「しゅ」と教えているのに、何でできないんだらう。」「マドゥカさんは、後輩にトレーニングをしていると疑問に思ってしまうことが何度もあった。そんな時、彼は入店した頃の自分を振り返るという。日本語がほとんど話せなかった時、みんなはいつも笑顔でフォローしてくれた。先輩たちは、自分に合わせて分かりやすく「トレーニング」してくれた。だからこそ、なんでできないかではな、とつぶやけばできるようになるかを、相手の立場になって考え続けるようになっていった。日本に来て、マクドナルドで働き始めて、自身が一番成長したことは、相手のことを考えて思いやることだと彼はこいつ。

そのマドゥカさんは決してあきらめな。トレーニングがスキルを身につけるまで、何度でも笑顔で教え、明るく元気に「トレーニング」を送り続ける。気がつくと、日本語が少しずつと上達していった。そんな彼の姿を見て、一緒に働く仲間たちは次第に大きな信頼を寄せられるようになっていった。

海を越えて、言葉の壁を越えて

店舗ではうまくいかないと多々。予測通りに事が進まない日もある。時には目標を達成できないことだってある。みんなの気持ちがあんな時、沈黙を打ち破るのはいつもマドゥカさんだ。「大丈夫、大丈夫」「絶対できますよ」「次、次！ まだ挑戦の途中です！」。仲間が落ち込んでいると、彼はみんなを元気づけ、店舗の雰囲気明るく前向きに変えてくれる。海を越えて日本にやって来た青年は、言葉の壁も越えて、自分のしさを存分に発揮して、異国のマクドナルドで働く仲間を支えている。

どんな時でもポジティブ、絶対あきらめない。「日本が好き、佐賀の街が好き、マクドナルドで働く仲間とお客様が大好きだから」。何でこつと前向きでいられるのかと尋ねると、「好き」という言葉がたたく返ってきた。彼の強さの裏側には、このお店で出会った温かい人たちがこのつながりをつくり出したこと。

大好きだから、あきらめない。

34号佐賀店(佐賀県)
トレーナー

ダダツラゲ・マドゥカ・
ニムシヤンさん

スリランカ出身、大学生。2年前に留学生として来日。母国でもなじみのあったマクドナルドなら安心して働けると思い、34号佐賀店に入店。日本語とともにオペレーションとトレーニングのスキルを磨き、厨房のリーダーとして仲間の成長を支えている。趣味はジムでのトレーニング。

